

原強プ第11号
2019年11月14日

島根県知事 丸山達也様

中国電力株式会社
代表取締役副社長執行役員
原子力強化プロジェクト長
小川司徳

島根原子力発電所における保守管理の不備等に関する
再発防止対策の進捗状況について（報告）

2019年10月18日に開催された、第22回原子力安全文化有識者会議の議事概要について、平成22年3月30日付け消防第2738号および平成22年10月19日付け消防第1054号の申し入れに基づき、添付資料のとおりご報告いたします。

添付資料

第22回原子力安全文化有識者会議 議事概要

以上

第22回原子力安全文化有識者会議 議事概要

- 開催日時 2019年10月18日(金) 15時00分～16時50分
- 開催場所 テクノアークしまね4階 大会議室
- 出席者 [社外委員] 梅林委員, 亀城委員, 児玉委員, 高尾委員, 豊田委員(座長), 野津委員
※山浦委員は欠席(事前に意見を受領)
[社内委員] 小川原子力強化プロジェクト長, 平野副社長, 岩崎常務

○ 議事内容

1. 開会あいさつ(小川幹事)

- ・ただいまから、「第22回原子力安全文化有識者会議」を開催する。
- ・委員の皆さまにはご多用の中、本会議に出席賜りお礼申し上げます。
- ・自然災害が多発しており、中国地方でも全国でも、地震や大雨、台風による大規模災害や長時間停電が続発しており、電力会社間の相互応援の強化、設備の強靱化に向け、一層の努力を重ねていく所存である。
- ・電力システム改革の仕上げとして、来年4月には送配電会社を分社するが、分社後も広域な自然災害に対し、従来どおりグループ一体となって万全な機能を果たすことで地域の皆さまのご要望に添えていけるよう取り組んでまいります。
- ・近隣の電力会社で、多数の幹部社員が高額な金品を受領していたうえ、適切な手続きも怠っていたという事象が連日報道されている。当社では、こうした事象により、地域の皆さまの信頼を損ねることがないように、引き続き緊張感を持って「コンプライアンス最優先」の事業運営をしっかりと浸透させてまいります。
- ・本日の議題であるが、まず、点検不備問題に係る再発防止対策の実施状況について説明させていただく。再発防止の取り組みは着実に実施されていると考えている。
- ・2つ目の議題として、「当社の原子力安全文化醸成に向けた取り組みについて」報告させていただく。
- ・最後に、情報提供として、「島根原子力発電所2号機の新規制基準適合性審査の状況」と島根原子力発電所を対象として今年11月に行われる「国の原子力総合防災訓練」について説明させていただく。

2. 議事

- (1) 点検不備問題に係る再発防止対策の実施状況・評価ほかについて
- (2) 原子力安全文化醸成に向けた取り組みについて

資料に基づき、電源事業本部部長 古川および原子力強化プロジェクト部長 安村から「点検不備問題に係る再発防止対策の実施状況・評価ほか」および「原子力安全文化醸成に向けた取り組み」について説明し、質疑を行った。

主な意見は以下のとおり。

〔再発防止対策の実施状況に対する意見〕

- ・ これまでは不適合管理プロセスに基づいて管理していたものが、今後はニアミスとか前兆事象といった「気付き」も含むことになるようだが、「気付き」というものは、主観的なものであり、各人の安全意識のレベルによって左右されるため、出すか出さないかの判断が難しい。危険予知のレベルを上げたり、発見できる能力を教育していく必要がある。
- ・ 大きな組織になると、小集団のような活動が、自主的、自立的に当事者意識をもって行われる必要がある。自ら自分のことと考えてどのような行動を行ったのか、活動を通じて行動がどう変化したのか確認したい。
- ・ 「職場話し合い研修」のアンケートで、「ややそう思う」と回答した社員は、なぜ「やや」と回答したのか。この「やや」のところを調べてみると新たなものが見えてくるのではないか。
- ・ 先日の水害では、新幹線を本線に避難させるといった過去の経験が活かされていなかった。できていたことができなくなっていることの怖さというものを感じた。厳しい態度でリスクを想定していく必要があると思う。
- ・ 役員と発電所員との意見交換の資料で昔に比べて現場へ行く人が減っているとの記載があった。三現（現場、現物、現実）主義を大事にして進めてほしい。
- ・ お客さま視点の価値観を認識する機会拡大で、技術職が広報活動に参加することが大切との感想には賛成。地域の生の声を聞くことは自分への戒めとなる、引き続き行っていただきたい。
- ・ 7月に見学会に参加したが、丁寧に案内していただき、稼働に向け、真剣な様子がよくわかった。安全を理解していただくためにも見学会をいろいろな方面へPRしていけば良いのではないか。子ども会に原子力館を紹介すれば、子どもたちも原子力への親しみが湧くと思う。

〔原子力安全文化醸成に向けた取り組み全般に対する意見〕

- ・ エクセレンスの例として1号機を出しているが、新しい技術が出ており、1号機は古いので、新しいものを出したほうがよかったのではないか。

(3) 情報提供：島根原子力発電所2号機 新規制基準適合性審査の状況について

(4) 情報提供：国の原子力総合防災訓練の実施について

資料に基づき、電源事業本部部長 岩崎から「島根原子力発電所2号機新規制基準への適合性審査状況」および「国の原子力総合防災訓練の実施」について情報提供し、質疑を行った。

3. 閉会あいさつ（小川幹事）

- ・ 本日は長時間に渡り、有識者委員の皆さま方に様々な角度からご意見・ご指導等をいただいた。
- ・ 繰り返しご指摘いただいたことは、「プロセスはよく分かったが、具体的な成果物を提示してもらいたい。」「行動がどう変わったの見える化してほしい」ということであった。これにお応えすることは非常に難しいが、次回までに工夫して分かりやすく提示したい。
- ・ いただいたご意見を基に、施策の内容をさらに充実して結果につなげるといった観点から、同じ取り組みをするならばより有効なものとなるようさらに工夫していきたい。
- ・ いずれにしても、「地域、社会から信頼をいただける原子力発電所」というテーマが基本中の基本。

これを大切にしながら鋭意取り組んでまいりますので引き続きご意見を賜りたい。

- ・今後の取り組みについて、ご意見・ご提言を賜りながらブラッシュアップしてまいりたい。
- ・本日は、長時間にわたりご意見をいただき、感謝申し上げます。

以 上